なつやすみにおススメの本 2022

～中学生向き～

鎌倉市図書館

ＱＲコードを読み取ると図書館ホームページの本の情報が出てくるので、予約してね♪

『ミライを生きる君たちへの特別授業』

ジュニスタ編集部／編

岩波書店（2021 年）

Y 159.7

いま、あなたが不安に思っていること、例えば、生きづらさとか、進路のこと、友達とのこと、家族のことなど、もやもやしていることがあると思います。

そのことについて、はっきりした答えは見つからないかもしれません。自分で考えることに行き詰まったら、この本を開くと、一歩前にすすむ勇気をくれます。

『世界不思議地図』

佐藤健寿／著　阿部結／絵

朝日新聞出版（2017 年）

290.9

まだまだ終わりの見えないコロナ。もしあなたが世界中を旅したいと願っても叶わないなら、この本を手に取って旅行気分を味わいませんか？

ただし、現地の有名なスポットを訪ねる、名物を食するだけが旅行のすべてではありません。この本では、世界各地の不思議な事件・出来事・お祭りなどを、地図上に描いたイラスト・写真と解説で紹介しています。

『あなたを閉じこめる「ずるい言葉」－10 代から知っておきたい－』

森山至貴／著　WAVE 出版（2020 年）

Y 361.4

家族や友人、学校の先生、日常的にかかわる人との何気ない会話に隠された「ずるい言葉」ってどんな意味があるのかしら。あまり自覚はないけど、自分でも使っていたり、使われていたり。思想的背景・ジェンダーなどのキーワードを解説しつつ紹介しています。自分のひと言を相手がどう受けとめどう感じるか、考えさせられる１冊です。

『マンガでわかる LGBTQ+』

パレットーク／著　ケイカ／マンガ

講談社（2021 年）

367.9

LGBTQ+…聞いたことはあるけれどよく分からないという人は多いでしょう。でも、決して遠い世界の話ではないのです。アナタの周りにも人知れず悩んでいる人がいるのです。一人一人が「自分らしく」生きられるように、この本にはそういう願いが詰まっています。

『十三世紀のハローワーク－中世実在職業解説本－』

グレゴリウス山田／著　一迅社（2017 年）

384.3

ハローワークの本…といえば『１３歳のハローワーク』が有名ですが、こちらはなんと『十三世紀のハローワーク』！その中身たるや、開いて驚くこと間違いなし！イラスト、構成はロールプレイングゲーム風。しかし、内容はしっかり掘り下げられていて、読むだけで歴史の勉強にもなるという本なのです。さてさて、君が気になる仕事はあるかな？

『もがいて、もがいて、古生物学者!!－みんなが恐竜博士になれるわけじゃないから－』

木村由莉／著　ブックマン社（2021 年）

457

タイトルが示すとおり、作者がもがいてもがきながらも、夢を自分のものにするという意思を努力の原動力として、ひたむきに進んでいます。時として訪れる分岐点でも作者は自分の心に向き合い逃げない道を選んでいきます。進路で悩んでいる人は、この本がその助けになるかもしれません。

『感染症とワクチンについて専門家の父に聞いてみた』

さーたり・中山哲夫／著　KADOKAWA（2020 年）

493.8

予防接種を受けるとき、「どうして、こんなに痛いことをしなくちゃいけないの！」と思う人もいるはず。この本は、今、気になる「コロナ」だけでなく、「おたふく」や「はしか」など数々の感染症とワクチンについて、どんな病気かウイルスの歴史からワクチン開発に至った経緯が読みやすいマンガで書かれています。コロナのこと、ワクチンのこと、改めて考えてみませんか？

『リアルでゆかいなごみ事典 －ごみ清掃芸人は見た！－』

滝沢秀一／著　大和書房（2020 年）

518.5

何を«ごみ»にしてしまうかはアナタ次第。ありとあらゆるものが«ごみ»となりうるからこそ、単に«ごみ»にするのかどうか、ちょっと考えてみてはどうでしょう。そして、«ごみ»にするときにはきちんと分別して出しましょう、回収する人が喜ぶこと間違いなし。

『朔と新』

いとうみく／著

講談社（2020 年）

Y 913.6/イ

兄弟で乗っていた高速バスが事故に遭い、視覚を失った兄・朔と、走ることを諦めた弟・新。ブラインドマラソンへの挑戦が、事故を機に距離が離れていた兄弟を再びつなげます。いつでも近くにいるからこそ難しい家族との距離感に悩むとき、この物語がその存在意義を気づかせてくれるかもしれません。

『この空のずっとずっと向こう』

鳴海風／著　おとないちあき／絵

ポプラ社（2022 年）

J 913/ナ

1871 年（明治 4 年）、アメリカへ向けて出港した使節団の中に、日本初の女性留学生 5 人がいました。その中の一人、吉益亮子（よしますりょうこ）が主人公です。「世界はとても広いけど、空は外国とつながっている。外国はそんなに遠くない。」海外へ行くのが難しかった時代に、外国で学ぶ夢をかなえた少女。さわやかな勇気が湧いてきます。

『南西の風やや強く』

吉野万理子／著

あすなろ書房（2018 年）

Y 913.6/ヨ

舞台は鎌倉。12 歳から始まる主人公・伊吹の物語。12 歳、江の島までクラスメイトと歩いた夏の夜。15 歳、恋心が生んだ誰にも言えない秘密。18 歳、目の前にあるどうにもならない現実。自分のこと、友達のこと、家族のこと、恋のこと。あどけない少年が岐路に立たされるたびに少しずつ大人になっていく姿がつづられています。

『ヴンダーカンマー －ここは魅惑の博物館－』

樫崎茜／著　理論社（2018 年）

Y 913.6/カ

職場体験は、もうやりましたか？この本では、5 人の生徒が体験の中で、さまざまな人やものとの触れ合いを通じて、揺れ動く心が描かれてます。希望が叶わず体験した職場でも、いやいや経験を重ねていくうちに、違った感情が湧いてくる。たった 1 日の職場体験でも、きっと大人への一歩を踏み出せるはず。

鎌倉市図書館ホームページの**ティーンズのページ**では

（https://lib.city.kamakura.kanagawa.jp/ya/index.html）→

ここで紹介した本のほかにも、過去に紹介した

「なつやすみにおすすめの本」や、図書館員がおすすめする本の紹介がみられるよ。check it out!!

アンケートにご協力ください!!

鎌倉市図書館では「第４次鎌倉市図書館サービス計画」の準備中です。

みなさんから「こんな図書館に行ってみたい」という意見を募集しています。

どんな図書館がイイと思うか教えてください。

左の QR コードからアンケートフォームにアクセスして回答してね。

鎌倉市図書館 YA 委員会発行　2022.7